ドイツ語学科講演会

「中世」の発明-19世紀ドイツのナショナリズム



本講演は、強大な皇帝や騎士、城や大聖堂といった今日の通俗的な中世像の多くが、19世紀ナショナリズムの中で「発明」されたことを明らかにする。「中世」も「国民」も輪郭があいまいな概念であり、それゆえに異なる時代・地域の断片を寄せ集めた虚構の中世像が成立し得た。小邦分立のドイツでは、タキトゥス『ゲルマニア』を恣意的に読み替えたゲルマン神話、アルミニウス（ヘルマン）崇拝、国民語の規範化、『ニーベルンゲンの歌』の英雄化、教科書のノイシュヴァンシュタイン城、ケルン大聖堂の完成、キフホイザー記念碑などによって理想化された中世が可視化された。この19世紀のイデオロギーはナチズムの人種主義へと連続し、現在もAfDや極右勢力がヘルマン記念碑などの象徴を再利用している。ヘルヒェルト氏は事実に基づかないこの中世像の危うさを警告し、対抗する手段は知識のみだと結論付ける。

2026年 12月 17日 【木】

時　間 17：30～19：00

対象者 どなたでもご参加いただけます

参加費 無料

開催方法 Zoomによる講演会 （逐次通訳あり）

https://dokkyo-ac-jp.zoom.us/j/84442485278?pwd=mlsrs6K6nnX7vxYaO8Wk1jyOotB9qL.1



講演者

Prof. Dr. Gaby Herchert

ガービー・ヘルヒェルト教授（Prof. Dr. Gaby Herchert）は、デュースブルク＝エッセン大学においてドイツ中世文学研究の教授を務めた。退職後は、さまざまな国際共同研究プロジェクトに携わっている。研究の重点は、文化史、インターカルチュラリティ（異文化間性）、そして中世文学とその19世紀における受容である。

主催：獨協大学ドイツ語学科　　問い合わせ先：048-946-1924